

Ⅱ 作物別作付（栽培）面積

1 水陸稲（子実用）

(1) 水稻

令和5年産水稻（子実用）の作付面積は134万4,000ha（前年産に比べ1万1,000ha（1％）減少）となった（表5）。

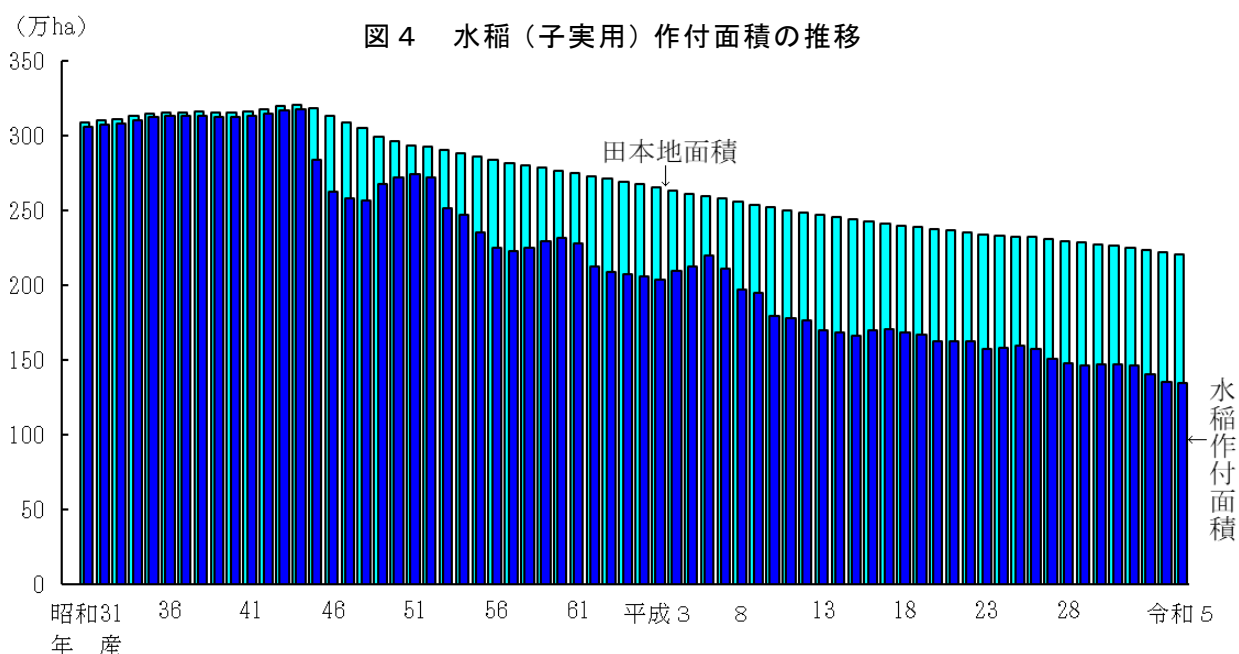
作付面積の動向をみると、昭和44年の317万3,000haを最高に、昭和45年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している（図4）。

(2) 陸稲

令和5年産陸稲（子実用）の作付面積は401ha（前年産に比べ67ha（14％）減少）となった（表5）。

表5 令和5年産水陸稲（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	水陸稲計			水 稻			陸 稲		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	1,345,000	△10,000	99	1,344,000	△11,000	99	401	△ 67	86
北 海 道	93,300	nc	nc	93,300	△ 300	100	x	nc	nc
都 府 県	1,251,000	nc	nc	1,251,000	△10,000	99	x	nc	nc
東 北	349,100	nc	nc	349,100	800	100	x	nc	nc
北 陸	197,700	nc	nc	197,700	△ 500	100	－	nc	nc
関 東・東山	239,900	nc	nc	239,500	△ 600	100	x	nc	nc
東 海	86,800	nc	nc	86,800	△ 300	100	0	nc	nc
近 畿	94,700	nc	nc	94,700	△ 1,700	98	－	nc	nc
中 国	94,000	nc	nc	94,000	△ 1,800	98	x	nc	nc
四 国	43,100	nc	nc	43,100	△ 1,500	97	－	nc	nc
九 州	145,300	nc	nc	145,300	△ 4,800	97	－	nc	nc
沖 縄	576	nc	nc	576	△ 63	90	－	nc	nc



2 麦類（子実用）

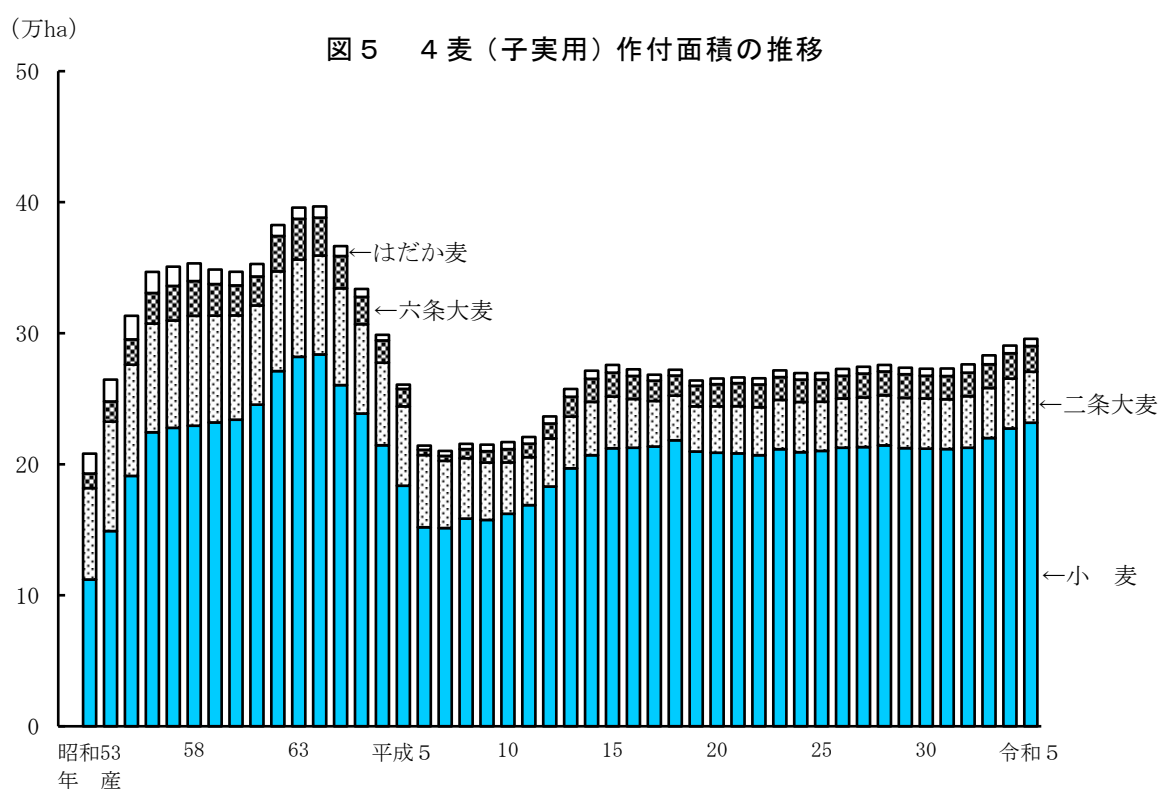
(1) 4 麦計

令和 5 年産 4 麦（子実用）の作付面積は29万5,700ha（前年産に比べ5,100ha（2%）増加）となった。麦種別には、小麦は前年産に比べ4,400ha（2%）増加し、二条大麦は前年産に比べ800ha（2%）増加し、六条大麦は前年産に比べて300ha（2%）増加し、はだか麦は350ha（6%）減少した（表 6）。

作付面積の動向をみると、作付農家数の減少、水田裏作の減少等により昭和48年に15万4,800haと過去最低となった。その後、麦の生産振興策が講じられたこと、米の転作作物として田作小麦が増加したこと等により、平成元年には39万6,700haとなった。平成2年以降は水田裏作の減少等により再び減少し、平成7年には21万200haとなった。平成8年以降は米の需給調整対策の推進等に伴い再び増加傾向で推移し、平成14年には27万1,500haとなった。その後はほぼ横ばいとなっていたが、近年再び増加傾向となっている（図 5）。

表 6 令和 5 年産 4 麦（子実用）作付面積（田畑別）

区 分	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
4 麦 計	295,700	5,100	102	189,100	3,300	102	106,600	1,800	102
小 麦	231,700	4,400	102	130,300	2,400	102	101,400	2,000	102
二条大麦	38,900	800	102	35,500	800	102	3,440	60	102
六条大麦	19,600	300	102	18,100	400	102	1,470	△ 110	93
はだか麦	5,520	△ 350	94	5,220	△ 250	95	299	△ 96	76



(2) 麦種別作付面積

ア 小麦

令和 5 年産小麦（子実用）の作付面積は23万1,700ha（前年産に比べ4,400ha（2%）増加）となった。これは、他作物からの転換等があったためである。

このうち、北海道は13万2,300ha（前年産に比べ1,700ha（1%）増加）となった。

また、都府県は9万9,500haで（前年産に比べ2,800ha（3%）増加）となった（表7）。

イ 二条大麦

令和 5 年産二条大麦（子実用）の作付面積は3万8,900ha（前年産に比べ800ha（2%）増加）となった（表7）。

ウ 六条大麦

令和 5 年産六条大麦（子実用）の作付面積は1万9,600ha（前年産に比べ300ha（2%）増加）となった（表7）。

エ はだか麦

令和 5 年産はだか麦（子実用）の作付面積は5,520ha（前年産に比べ350ha（6%）減少）となった（表7）。これは、関東・東山や四国を中心に他作物への転換等があったためである。

表7 令和5年産4麦（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	4麦計			小 麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	295,700	5,100	102	231,700	4,400	102	38,900	800	102	19,600	300	102	5,520	△350	94
北 海 道	134,100	1,700	101	132,300	1,700	101	1,710	10	101	14	1	108	69	△15	82
都 府 県	161,700	3,500	102	99,500	2,800	103	37,200	800	102	19,600	300	102	5,450	△330	94
東 北	8,410	490	106	6,730	430	107	52	25	193	1,630	40	103	-	-	nc
北 陸	11,200	500	105	530	132	133	2	0	100	10,700	400	104	x	x	x
関東・東山	38,300	300	101	21,400	600	103	12,000	100	101	4,590	△210	96	x	x	x
東 海	18,200	300	102	17,700	300	102	x	x	x	x	x	x	x	x	x
近 畿	11,400	400	104	8,920	440	105	150	x	x	2,070	50	102	x	x	x
中 国	6,990	420	106	3,130	180	106	3,190	270	109	x	x	x	575	△32	95
四 国	5,430	180	103	3,110	260	109	65	x	x	x	x	x	2,250	△100	96
九 州	61,600	800	101	37,900	300	101	21,700	400	102	48	x	x	1,920	△40	98
沖 縄	14	2	117	8	1	114	6	1	120	-	-	nc	-	-	nc

3 かんしょ

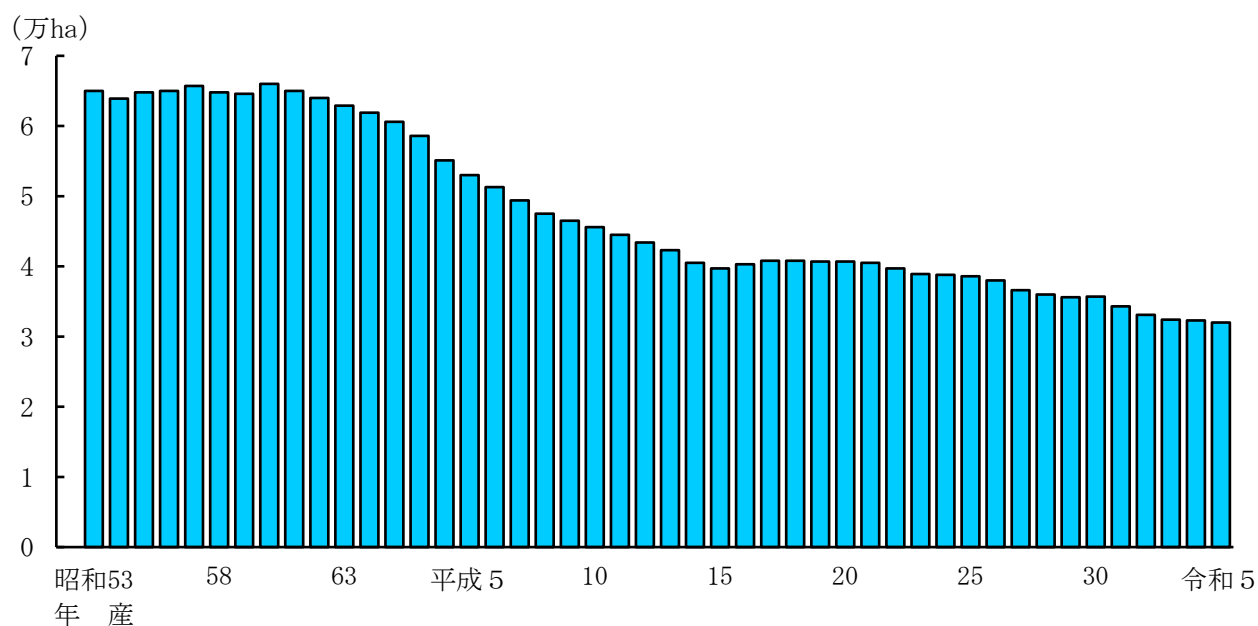
令和 5 年産かんしょの作付面積は3万2,000ha（前年産に比べ300ha（1%）減少）となった（表8）。

作付面積の動向をみると、昭和60年以降は減少傾向で推移している（図6）。

表8 令和5年産かんしょ作付面積

区 分	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
か ん し ょ	32,000	△300	99	2,220	140	107	29,800	△400	99

図6 かんしょ作付面積の推移



4 そば（乾燥子実）

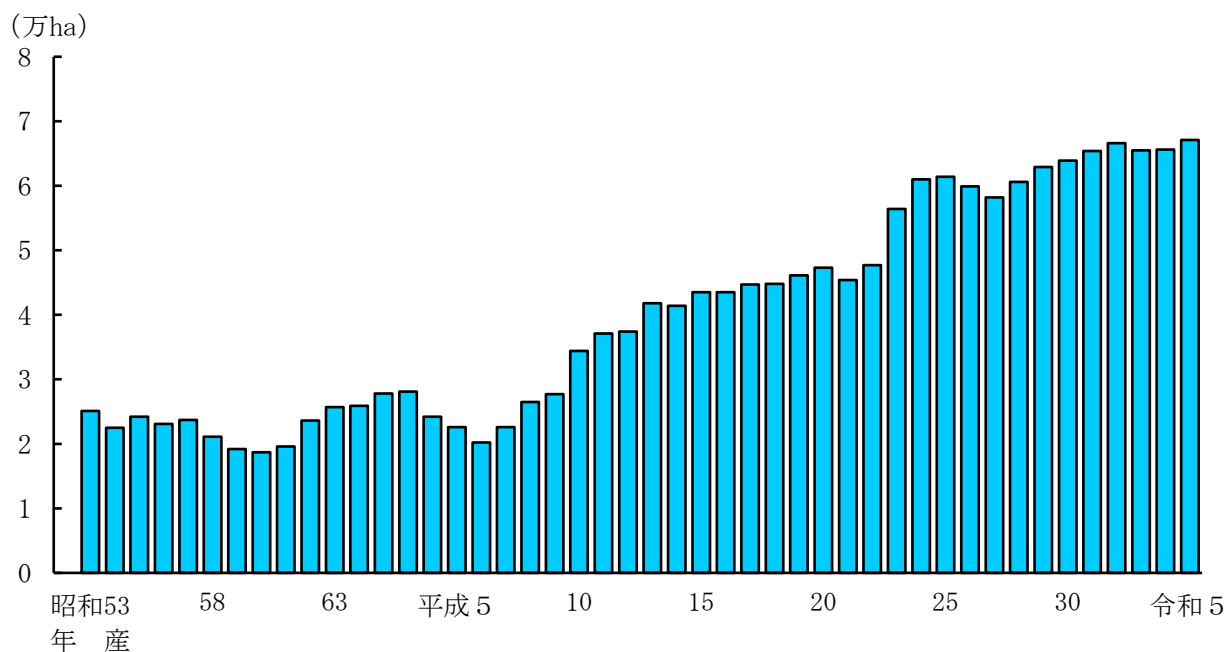
令和5年産そば（乾燥子実）の作付面積は6万7,100ha（前年産に比べ1,500ha（2%）増加）となった（表9）。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成4年から平成6年までは減少した。平成7年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移している（図7）。

表9 令和5年産そば（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	67,100	1,500	102	39,400	1,100	103	27,800	500	102
北 海 道	24,900	900	104	9,350	770	109	15,500	0	100
都 府 県	42,300	700	102	30,000	200	101	12,300	500	104
東 北	18,100	200	101	13,600	△ 200	99	4,420	300	107
北 陸	5,770	150	103	5,230	150	103	543	2	100
関東・東山	12,700	400	103	6,790	160	102	5,910	230	104
東 海	526	8	102	454	25	106	72	△ 17	81
近 畿	x	x	x	x	x	x	30	x	x
中 国	1,550	△ 10	99	1,330	△ 20	99	218	5	102
四 国	101	△ 10	91	62	△ 5	93	39	△ 5	89
九 州	2,620	30	101	1,620	60	104	1,000	△ 40	96
沖 縄	21	△ 18	54	-	-	nc	21	△ 18	54

図7 そば（乾燥子実）作付面積の推移



5 豆類（乾燥子実）

(1) 大豆（乾燥子実）

令和5年産大豆（乾燥子実）の作付面積は15万4,700ha（前年産に比べ3,100ha（2%）増加）となった（表10）。これは、他作物からの転換等があったためである。

作付面積の動向をみると、外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移していたが、昭和53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加した。その後、昭和63年以降は減少傾向で推移し、平成6年には過去最低の6万900haとなった。平成7年から平成15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移し、平成16年以降は上下動のある動きとなっている（図8）。

(2) 小豆（乾燥子実）

令和5年産小豆（乾燥子実）の作付面積は2万4,800ha（前年産に比べ1,600ha（7%）増加）となった（表10）。

主産地である北海道の作付面積は2万900ha（全国の約8割）（前年産に比べ1,800ha（9%）増加）となった。

これは、他作物からの転換等があったためである。

(3) いんげん（乾燥子実）

令和5年産いんげん（乾燥子実）の作付面積は5,870ha（前年産に比べ350ha（6%）減少）となった（表10）。

主産地である北海道の作付面積は5,450ha（全国の約9割）（前年産に比べ330ha（6%）減少）となった。

これは、他作物への転換等があったためである。

(4) らっかせい（乾燥子実）

令和5年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積は5,710ha（前年産に比べ160ha（3%）減少）となった（表10）。

主産地である千葉県の前年産の作付面積は4,680ha（全国の約8割）（前年産に比べ110ha（2%）減少）となった。

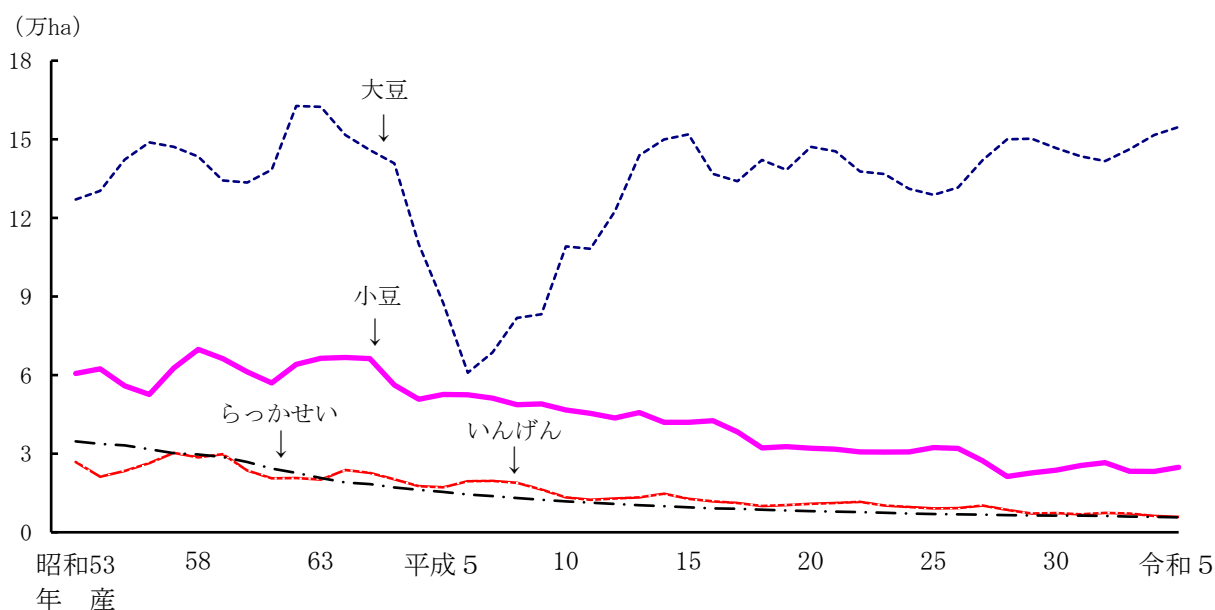
これは、生産者の労力事情等に伴う作付中止等があったためである。

表 10 令和5年産豆類（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

区 分	大 豆（乾燥子実）											
	全国	北海道	都府県	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
作付面積(ha)	154,700	45,300	109,300	38,200	12,600	10,500	12,400	10,100	4,490	474	20,700	x
対前年差(ha)	3,100	2,100	900	400	200	400	100	310	30	△ 66	△ 300	x
対前年比(%)	102	105	101	101	102	104	101	103	101	88	99	x

区 分	小 豆（乾燥子実）				いんげん(乾燥子実)		らっかせい（乾燥子実）	
	全国	北海道	滋賀	京都	全国	北海道	全国	千葉
作付面積(ha)	24,800	20,900	141	415	5,870	5,450	5,710	4,680
対前年差(ha)	1,600	1,800	△ 23	△ 43	△ 350	△ 330	△ 160	△ 110
対前年比(%)	107	109	86	91	94	94	97	98

図 8 豆類（乾燥子実）作付面積の推移



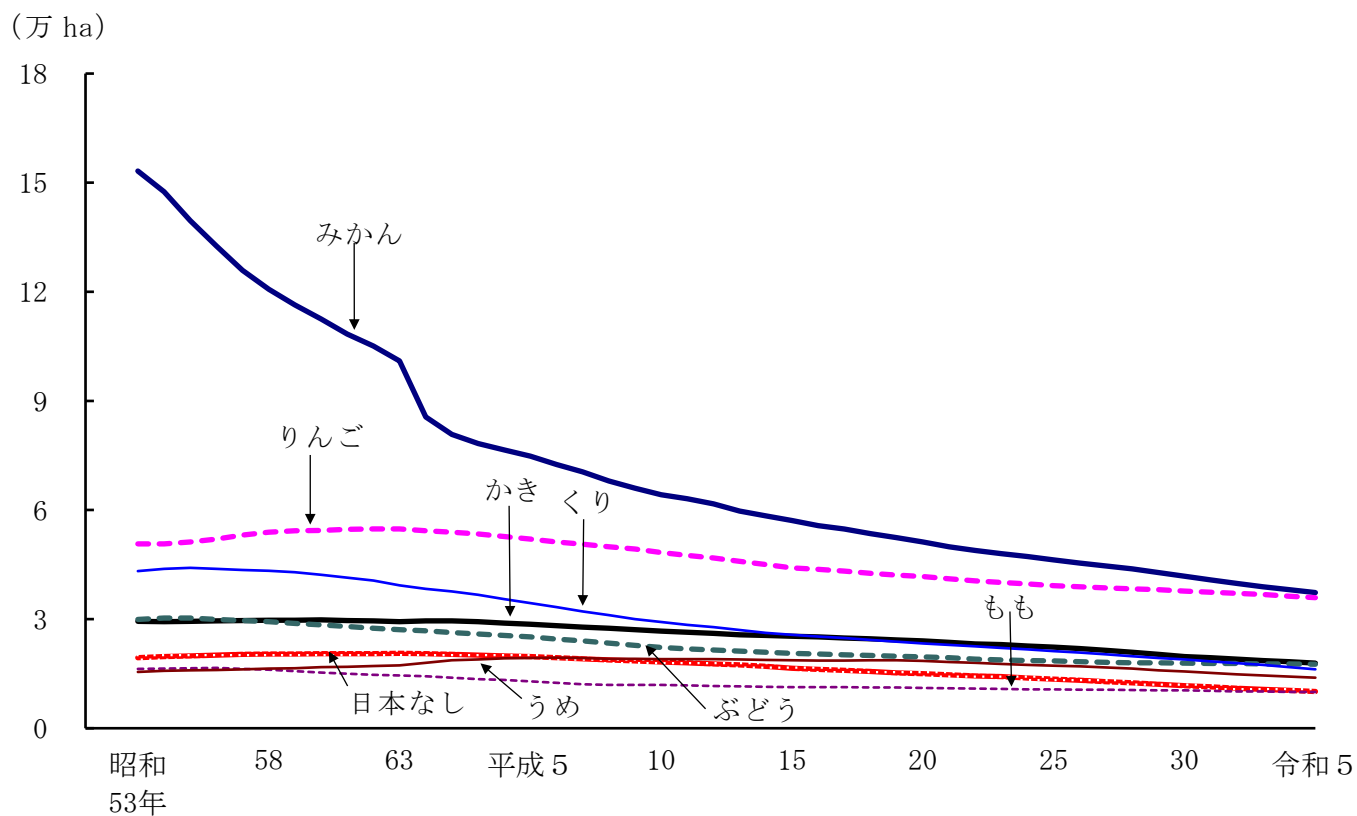
6 果樹

令和5年果樹の主な品目別の栽培面積は、みかんは3万7,300ha（前年に比べ800ha（2％）減少）、りんごは3万5,900ha（同400ha（1％）減少）、かきは1万7,900ha（同400ha（2％）減少）、ぶどうは1万7,600ha（同100ha（1％）減少）、くりは1万6,200ha（同600ha（4％）減少）となった（表11）。

表 11 令和5年果樹栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較			区 分	栽培面積	前年との比較		
		対 差	対 比				対 差	対 比	
	ha	ha	%		ha	ha	%		
み か ん	37,300	△ 800	98	す も も	2,740	△ 70	98		
その他かんきつ類	23,600	△ 400	98	お う と う	4,430	△ 110	98		
り ん ご	35,900	△ 400	99	う め	13,900	△ 300	98		
日 本 な し	10,100	△ 300	97	ぶ ど う	17,600	△ 100	99		
西 洋 な し	1,400	△ 40	97	く り	16,200	△ 600	96		
か き	17,900	△ 400	98	パインアップル	592	△ 6	99		
び わ	862	△ 65	93	キウイフルーツ	2,020	△ 10	100		
も も	9,950	△ 40	100						

図 9 主要果樹栽培面積の推移



7 茶

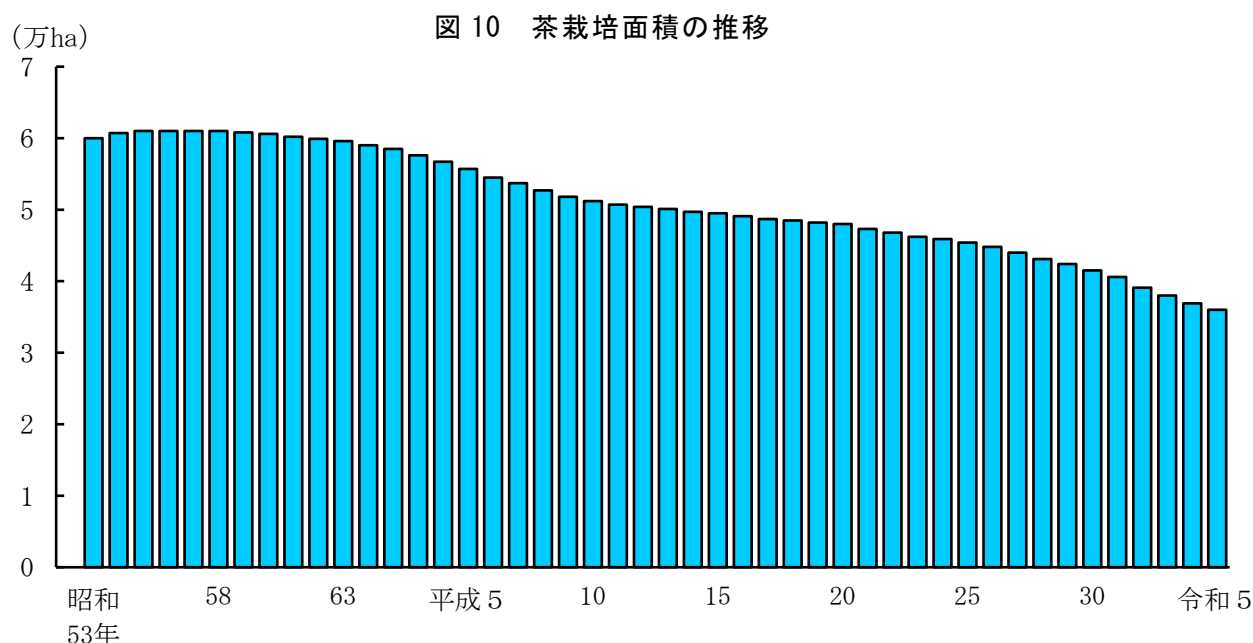
令和5年茶の栽培面積は3万6,000ha（前年に比べ900ha（2%）減少）となった（表12）。

これは、高齢化による労力不足に伴う廃園等があったためである。

栽培面積の動向をみると、昭和50年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は漸減傾向で推移している（図10）。

表 12 令和5年茶栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較	
		対 差	対 比
茶	ha	ha	%
	36,000	△ 900	98



8 飼料作物、えん麦（緑肥用）

(1) 飼料作物

令和5年産飼料作物計の作付（栽培）面積は101万8,000ha（前年産に比べ8,000ha（1%）減少）となった（表13）。

ア 牧草

令和5年産牧草の作付（栽培）面積は70万5,200ha（前年産に比べ6,200ha（1%）減少）となった。

イ 青刈りとうもろこし

令和5年産青刈りとうもろこしの作付面積は9万7,200ha（前年産に比べ900ha（1%）増加）となった。

ウ ソルゴー

令和5年産ソルゴーの作付面積は1万1,700ha（前年産に比べ300ha（2%）減少）となった。

(2) えん麦（緑肥用）

令和5年産えん麦（緑肥用）の作付面積は3万6,000ha（前年産に比べ8,000ha（18%）減少）となった（表13）。

主産地である北海道の作付面積は3万3,900ha（前年産に比べ7,900ha（19%）減少）となった。これは、他作物への転換等があったためである。

表 13 令和5年産飼料作物、えん麦（緑肥用）作付（栽培）面積

全 国 農 業 地 域	飼 料 作 物 計												えん麦（緑肥用）		
	作 付（栽培） 面 積			牧 草			青刈りとうもろこし			ソルゴー			作 付 面 積		
	ha	対 差	対 比	ha	対 差	対 比	ha	対 差	対 比	ha	対 差	対 比	ha	対 差	対 比
全 国	1,018,000	△ 8,000	99	705,200	△ 6,200	99	97,200	900	101	11,700	△ 300	98	36,000	△ 8,000	82
北 海 道	593,300	△ 300	100	522,300	△ 2,900	99	60,400	1,400	102	53	△ 5	91	33,900	△ 7,900	81
都 府 県	424,300	nc	nc	182,900	nc	nc	36,800	nc	nc	11,700	nc	nc	2,070	nc	nc
東 北	145,900	nc	nc	80,200	nc	nc	10,200	nc	nc	x	nc	nc	701	nc	nc
北 陸	13,800	nc	nc	2,600	nc	nc	166	nc	nc	282	nc	nc	68	nc	nc
関 東・東 山	83,900	nc	nc	17,900	nc	nc	13,000	nc	nc	1,340	nc	nc	1,190	nc	nc
東 海	16,500	nc	nc	4,700	nc	nc	893	nc	nc	544	nc	nc	40	nc	nc
近 畿	6,900	nc	nc	1,200	nc	nc	x	nc	nc	719	nc	nc	-	nc	nc
中 国	20,200	nc	nc	8,870	nc	nc	1,590	nc	nc	1,050	nc	nc	36	nc	nc
四 国	6,050	nc	nc	1,260	nc	nc	x	nc	nc	398	nc	nc	1	nc	nc
九 州	125,300	nc	nc	60,200	nc	nc	10,400	nc	nc	7,210	nc	nc	x	nc	nc
沖 縄	5,950	60	101	5,920	60	101	-	x	x	x	x	x	-	nc	nc

注： 飼料作物計とは、牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴーのほか、その他飼料作物（飼料用米等）を含めた合計である。

図 11 飼料作物作付（栽培）面積の推移

